

ワイルド書誌

(1992年12月～1994年6月)

- 伊藤 勲 「順三郎におけるワイルド——その物質主義と自我——」『幻影』第10号
西脇順三郎先生を偲ぶ会会報 1992年12月
- 河村鏡一郎 「背徳 オープリー・ピアズリー」『ユリイカ』 12月臨時増刊号 青土社
1992年12月
- 遠山 一行 「ワイルド『芸術論』『リテレール』 第4号 メタログ社 1993年
サイモン・ウィルソン著、中川伸子訳 『ピアズリー』岩崎美術社 1993年
- 塩谷 秀男 「オスカー・ワイルド第2童話集」『柘榴の家』成文堂 1993年3月
- 大河内康行 「『真面目が大切』論——くまじめ』の追究——」『新潟大学人文科学研究』 第81輯
- 久保 久子 「The Happy Prince における Wilde の恋愛観について」*Otsuma Review*
No. 26 大妻女子大学英文学会 1993年7月
- 鳥海 久義 『ラファエル前派と世紀末』評論社 1993年7月
- 柴田多賀治 「芸術至上主義——芥川、ポオ、ワイルド」／「芥川龍之介とキリスト教
——「西方の人」「続西方の人」とワイルドとの関連を中心に」『芥川龍之介
と英文学』八潮出版社 1993年7月 pp. 60-137/pp. 226-271
- 吉田 秀和 「ヨーロッパの音楽都市像」『朝日新聞』 1993年7月21日付
- 無署名 「“AV維新の会”旗揚げ公開撮影の快挙」『週刊新潮』 1993年7月22日号
- 桐生 操 「オスカー・ワイルド 同性愛を追求した耽美派作家の真相」『イギリス怖
くて不思議なお話』PHP研究所 1993年8月 pp. 97-106
- 海野 弘 「世紀末ロンドンを歩く——1900年へのタイム・トラベル」『世紀末のスタ
イル』美術公論社 1993年9月 pp. 75-88
- 高階 秀爾 「「サロメ」——イコノロジー的試論」／「切られた首——世紀末想像力の
一側面」『西欧芸術の精神』(高階秀爾コレクション) 青土社 1993年9月
pp. 275-298/pp. 299-322
- 岡崎 一 「日本における Oscar Wilde (3)——『六合雑誌』の場合(1)」『Random』
第18号 東京外国語大学大学院英語英文学研究会 1993年9月 pp. 1-18
- 西脇 典彦 「Wilde の comedy に現れる「転落した女達」——Mrs. Erlynne と Mrs.
Arbuthnot——」『阪南論集』(人文・自然科学編)(第29巻第2号) 阪南
大学学会 1993年9月 pp. 9-15

- 富士川義之 「愉快な世紀末——サロメ」『マリ・クレール』中央公論社
1993年9月号
- 玉井 暲 「世紀末とロンドン Karl Beckson: *London in the 1890s: a Cultural
History*」『英語青年』研究社 1993年10月号
- 谷澤由起子 「ジョイスの町」『Signature』 10月号 ダイナース・クラブ・ジャパン
1993年10月 p. 133
- リチャード・エルマン著、大澤正佳訳『ダブリンの4人——ワイルド、イエイツ、ジョイ
ス、そしてベケット』岩波書店 1993年10月
- 井村 君江 「世紀末の代表ワイルド全集の時宜を得た復刻」『オスカー・ワイルド全集』
(復刻版, 全15巻) 宣伝パンフレット 紀伊国屋書店 1993年10月
- 吉田 健一 「英国の近代文学」のうち「ワイルド」『吉田健一集成』(1) 新潮社 1993
年11月 pp. 275-291
- 小島 敦 「O. ワイルドの“恋文”2通で300万円ナリ ロンドン・クリスティーズで
競売 あて名は新たな“恋人”パーミンガムの青年」『読売新聞』 1993年
12月7日
- 無署名 「ワイルドの“恋文” 約三百万円で落札」『朝日新聞』1993年12月7日
- 三嶋 君夫 「幸福な王子」におけるワイルドの倫理的側面」『研究集録』(第13号)
大手前女子学園大手前短期大学 1993年12月 pp. 88-101
- 無署名 「エドワード7世時代のエドワーディアン、よき英国の才人たち」『フィガ
ロ・ジャポン』 1月号 TBSブリタニカ p. 88
- 三国 宣子 「オスカー・ワイルド」／「オスカー・ワイルド『サロメ』」中村邦生、
木下卓、大神田丈二編『たのしく読めるイギリス文学』(シリーズ・文学ガイ
ドI) ミネルヴァ書房 1994年2月 pp. 132-133/pp. 138-139
- 西村 孝次 「わが従兄・小林秀雄」『文学界』文芸春秋社 1994年2月号
- 千葉 剛 「The Picture of Dorian Gray をめぐって」『東京農業大学一般教育学術
集報』第24巻 東京農業大学 1994年3月
- 無署名 「サロメ——解説、物語」『ANDROMAQUE/SALOME』現代演劇協会機
関誌 136号 1994年3月21日
- 貝嶋 崇 「Wilde and Wordsworth: Wordsworth's influence on Wilde and his
works」(英文)『熊本大学英語英文学』吉田正憲教授退官記念号 第37号
熊本大学英語英文学会 1994年3月
- 深澤 俊 「サヴォイ・オペラへの誘い」『英語青年』 4月号 研究社 1994年4月
1日
- 小池 滋 「ヴィクトリア朝の中のサヴォイ・オペラ」『英語青年』 4月号 研究社

1994年4月1日

度會 好一 「富山太佳夫著『シャーロック・ホームズの世紀末』『英語青年』 4月号
研究社 1994年4月1日

今泉晴子, 出水純子編注 「*The Nightingale and the Rose* by Oscar Wilde」『英米
小篇集——いとしき生きものたち——』朝日出版社 1994年4月1日

無 署 名 「デュボンがサロメ踊る」『朝日新聞』 1994年4月6日

無 署 名 「一夜だけの友情出演」『朝日新聞』 1994年4月25日

講演・研究発表

千葉 剛 「逆説の意味——エミリオ・ディキンソン, オスカー・ワイルド, 宮沢賢治」
世田谷区老人大学(東京都世田谷区教育委員会主催) 1993年9月18日

荒井 良雄 「ワイルドと日本文学」 駒沢大学中央講堂(駒沢大学文学部国文学会主催)
1993年11月21日

ワイルド情報

◆リライト版発売

北星堂書店は, Ken Cripwell により「1000語レベル」にリライトされた *The Importance of Being Earnest* (Nelson Readers, 1922) を, 「コリンズ版秀作原書+別冊注釈」シリーズの1冊として, 平成5年度より発売した。別冊注釈は『サロメ・ウィンダミア卿夫人の扇』(西村孝次訳, 新潮文庫)。

◆楽劇『サロメ』放映

「N響アワー “サロメ” 禁断の世界 R. シュトラウス 楽劇『サロメ』」が, 平成5年(1993年)6月19日にNHK教育テレビで放映された。これは平成5年4月21日, 22日の両日, NHKホールで行われた「N響1201定期公演」の録音放送。

作曲: リヒャルト・シュトラウス, 出演: サロメ: E. コエルホ, ヘロデ: H. ヒエスターマン, ヘロディアス: H. デルネシュ, ヨカナン: W. プロプスト, 指揮: ハンス・ドレヴァンツ。

◆『オスカー・ワイルド全集』(復刻版, 全15巻)出版

この復刻版は, Robert Ross が1908年に編集したオリジナル版に含まれていなかった戯曲 *For Love of King* と, Stuart Mason によるワイルド書誌が加えられて全15巻となっ

ている。日本総代理店の(株)紀伊国屋書店より販売された。(セット価格¥190,000): Oscar Wilde: *The Collected Works of Oscar Wilde*, Edited by Robert Ross, First Published 1908, Introduced by Dr. Joseph Bristow, 15vols, boxed set, Routledge/Thoemmes Press, 1993, 10.

◆『朝日新聞』(平成5年11月10日)の「きょう」欄にワイルドの記事が掲載された。「十一月十日はドリアン・グレイの誕生日である。三十八歳になった。たぐいまれな美貌は青年時代と変わらない。柔らかな日差しが流れ込む部屋で, 彼はチョコレートを飲む。まるで何事もなかったようである。かつて彼の肖像を描いた画家が, 前夜遅く失踪した。美の秘密を守るために彼が殺害したのだった。小説を書いたワイルド自身「時よ止まれ」という瞬間を願い続けたのだろうか。「芸術が人生を模するのではなく, 人生が芸術を模するのだ」とうそぶきつつ悲惨な晩年であった。」

◆映画『情炎の女サロメ』(コロンビア映画, 1953年)が平成6年(1994)2月24日, 日本テレビで放送された。監督: ウィリアム・ディターレ, サロメ: リタ・ヘイワース。

◆西村孝次協会初代会長, 自分のワイルド史を語る。西村孝次氏は, 「わが従兄・小林秀雄」(『文学界』1994年2月号)の中で, 自分のワイルド研究のきっかけは, 小林秀雄から与えられたものだったことを回想している。

◆『サロメ』上演

仏劇団「テアトル・デュタン」は平成6年(1994年)3月26日より29日まで三百人劇場で『サロメ』を上演した。主催: (財)現代演劇協会, 助成: 東京都国際平和文化交流基会, 笹川日仏財団。後援: 東京都, 駐日フランス大使館, アテネ・フランセ, 東京日仏学院。演出: 伏屋順仁, サロメ: ザビース・ドラボヴィッチ, ヨカナン: オリビエ・ブライトマン, ヘロディアス: シルビー・ガルバジイ, ヘロデ: ベルネーズ・モアル, 若いシリア人: ローアン・ハリトリイ, 小姓: ローラン・サキニデス。

◆ダンス『サロメ』上演

パトリック・デュボン(パリ・オペラ座のエトワールで芸術監督)は, 平成6年4月12日, オーチャードホール(東京・渋谷)で「サロメ」を踊った。これは, フランスのファッションブランド, セリーヌのファッションショー「セリーヌ et パトリック・デュボン/1994-1995 FALL & WINTER COLLECTION」のプログラムのひとつとして上演されたものの。

主催: セリーヌ et パトリック・デュボン, 振り付け: モーリス・ベジャール。

尚, このフランスを代表するファッションとダンスの競演の様子は平成6年4月13日, 日本テレビの「ルックルックこんにちは」で放送された。

◆『オスカー』上演

平成6年(1994)6月20日より7月6日まで, バルコスペースパート3(東京都・渋谷)

で、『オスカー／名も言えぬ愛』が上演された。作：アルベリ・信子，演出：テレンス・ナップ，オスカー・ワイルド：山崎努。

◆唯川恵氏が小説『サロメの眠るベッド』（マガジンハウス，1994，4.21）を出版。

この小説は，全編に渡り，官能的なサロメのイメージで書き下された現代的恋愛小説。

*『ワイルド・ニューズレター』（第10号）で掲載できなかった分も今回の書誌，情報の中に加えしました。

ワイルドCD情報

- (1) アーサー・サリヴァン (1842—1900, イギリス)
喜歌劇「ペイシェンス」(1881) 全曲
サー・マルコム・サージェント指揮 プロ・アルテ・オーケストラ
1962年録音 EMI 7 64406 2 (輸入盤)
- (2) アレクサンダー・ツェムリンスキー (1871—1942, オーストリア)
歌劇「フロレンスの悲劇」(1917) 全曲
ゲルト・アルブレヒト指揮 ベルリン放送交響楽団
1983年録音 シュパン 314 012 H1 (輸入盤)
- (3) アレクサンダー・ツェムリンスキー (1871—1942, オーストリア)
歌劇「王女の誕生日」(1922) 全曲
ゲルト・アルブレヒト指揮 ベルリン放送交響楽団
1984年録音 シュパン 314 013 H1 (輸入盤)
- (4) John Gielgud: Oscar Wilde 'The Happy Prince' Part One
サー・ジョン・ギールグッド (朗読)
協会名誉会長 サー・ジョン・ギールグッドによる「幸福な王子」, 「ナイチンゲールとばら」, 「わがままな大男」の朗読にヴォーン・ウィリアムズとグラナドスの小曲を挿入したもの。
1985年録音 ニンバス NIM 5036 (輸入盤)
- (5) John Gielgud: Oscar Wilde 'The Happy Prince' Part Two
サー・ジョン・ギールグッド (朗読)
ギールグッドによる「忠実な友達」, 「すばらしいロケット」の朗読に, ラヴェルとジョスタコーヴィッチの小曲を挿入したもの。
1985年録音 ニンバス NIM 5037 (輸入盤)

- (6) ジョージ・バタワース (1885—1916, イギリス)
歌曲「逝きし者に冥福あれ」(1911, 詩 Requiescat に付曲)
スティーブン・ヴァルコー (バリトン), クリフォード・ベンソン (ピアノ)
1987年録音 ハイペリオン CD66261/2 'War's Embers' 所収
荒井良雄先生提供 (輸入盤)
- (7) 伊福部 昭 (1914—, 日本)
舞踊曲「サロメ」(1948, 改訂1987)
山田一雄指揮 新星日本交響楽団
1987年録音 FUTURELAND LD 32-5054 (廃盤)
- (8) アーサー・サリヴァン (1842—1900, イギリス)
喜歌劇「ペイシェンス」(1881) 序曲
サー・ネヴィル・マリナー指揮 アカデミー・オブ・セント・マーティン・イン・ザ・フィールズ
1992年録音 フィリップス PHCP 5130
- (9) ジャック・イベール (1890—1962, フランス)
「レディング牢獄の唄」(1921, 三部構成の管弦楽曲)
アドリアーノ指揮 スロウヴァク放送交響楽団
1993年録音 マルコ・ポーロ 8.223503 (輸入盤)
〔シュトラウスの『サロメ』は，次号でまとめて紹介いたします。〕

